法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-08-30

<研究ノート>高校時代のキャリア教育の経験と大学新入生のキャリア意識 : 持続性の観点から

田澤, 実 / UMEZAKI, Osamu / TAZAWA, Minoru / 梅崎, 修

(出版者 / Publisher)
法政大学キャリアデザイン学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
生涯学習とキャリアデザイン / Lifelong Learning and Career Studies
(巻 / Volume)
20
(号 / Number)
2
(開始ページ / Start Page)
83
(終了ページ / End Page)
96
(発行年 / Year)
2023-03
(URL)
https://doi.org/10.15002/00030110

〈研究ノート〉

高校時代のキャリア教育の経験と大学新入生のキャリア意識
―持続性の観点から―

法政大学キャリアデザイン学部教授　田澤　実
法政大学キャリアデザイン学部教授　梅崎　修

1　本研究の目的

本研究の目的は、高校でのキャリア教育の経験の効果が大学入学後も持続するかについて明らかにすることである。

本研究の構成は以下のとおりである。つづく第２節では、先行研究を述べる。第３節ではデータの概要を説明し、第４節で結果と考察を述べる。第５節はまとめである。

2　先行研究

（1）高校時代のキャリア教育の経験

本研究では、高校時代のキャリア教育の経験について、労働政策研究・研修機構が2010年に執筆した研究報告書である『学校時代のキャリア教育と若者の職業生活』を主要な先行研究と位置づける。同書は、本研究と関連がある個所に限定すれば、下記のような特徴を持つ。

第一に、学校卒業後の若者（23～27歳）に、学校時代のキャリア教育を覚えているか否か、現在の職業生活にその内容が役立っているか否かという評価を求めて、様々な条件との関連を明らかにしたことである。これは、学校段階でのキャリア教育がその後のキャリア形成や職業生活にどのような影響を与えるかという中・長期的な視点からの検討が必要であるものの、日本においてはそのような視点からの研究はほとんどなかったことを背景にしている。

第二に、学校時代に行ったキャリア教育関連の授業や行事で記憶にあるものの割合について比較することにより、各学校段階において重視されている授業や行事を示したことである。具体的には、中学校では「職業や仕事を調べる授業」「ボランティアなどの体験活動」が、高校では「進路に関する二者面談や三者面談」「進路に関する個別相談やカウンセリング」「進路の目標や計画を考える授業」が、大学等では「職業興味や職業適性などの検査」「自分の性格を理解するための検査」「履歴書の書き方や面接試験の練習」「コミュニケーションやマナーを学ぶ授業」「労働法（働くことに関する法律）に関する授業」が重視されていることを示した。

第三に、学校時代のキャリア教育と学校卒業後のキャリアとの関連を検討したことである。具体的には、「大卒」「卒業直後に正規就労」「非正規就労経験なし」「転職経験なし」といった、いわば「直線的」なキャリアを歩んだ回答者は中学・高校時代のキャリア教育の評価が高いものの、何らかの形で「直線的」なキャリアを歩んでこなかった回答者は中学・高校のキャリア教育の評価も低いことを示した。これらの結果からそれぞれの対

象層に応じた適切なキャリア教育を展開する必要性を示唆している。

（2）大学時代のキャリア意識

本研究では、大学生のキャリア意識を測定する尺度として、下村・八幡・梅崎・田澤（2013）による「キャリア意識の発達に関する効果測定テスト（キャリア・アクション・ビジョン・テスト：CAVT）」を用いる。同尺度はアクションとビジョンの2因子から構成されている。なお、CAVTは、下村・八幡・梅崎・田澤（2013）によって、就職活動の活動量、第一志望企業への内定、内定先企業に対する満足感、学業成績と正の関連があることが示されており、大学生のキャリアガイダンスの効果測定のための尺度として活用可能な妥当性を確認している。

3　データ概要

（1）対象校

関東近郊の私立大学1校であった。

（2）対象科目

同大学のキャリアセンターが開講している正課授業のキャリア形成支援科目「キャリアデザイン入門」であった。

（3）対象者

同授業を受講している大学1年生1,830名（男性920名、女性906名、その他4名）であった。平均年齢は18.27歳（SD=0.56）であった。主な学部は社会、経営、経済、法、現代福祉、文、人間環境、国際文化などであった。対象科目は2年生以上も履修が可能であるが、本研究では大学1年生のみを分析の対象とした。

（4）用いた質問

オンラインでの回答フォームにより下記について尋ねる質問紙調査を行った。

①高校時代のキャリア教育の経験

労働政策研究･研修機構（2010）を参考にして、「あなたは、高校に通っている間に以下に挙げるような授業や行事が記憶にありますか。記憶があるものについて、チェックを入れてください」と教示し、以下の13の選択肢を提示した（複数回答可）。以降の分析ではチェックがある場合を「経験あり」、チェックがない場合を「経験なし」として扱った。

A）職業興味や職業適性などの検査
B）自分の性格を理解するための検査
C）職業や仕事を調べる授業
D）職業人や地域の人に仕事の話を聞く授業
E）職場体験学習やインターンシップ
F）ボランティアなどの体験活動
G）進路に関する二者面談や三者面談
H）進路に関する個別相談やカウンセリング
I）進路の目標や計画を考える授業
J）履歴書の書き方や面接試験の練習
K）就職活動の進め方や試験対策の授業
L）コミュニケーションやマナーを学ぶ授業
M）労働法（働くことに関する法律）に関する授業

②キャリア意識

下村・八幡・梅崎・田澤（2013）による「キャリア意識の発達に関する効果測定テスト（キャリア・アクション・ビジョン・テスト：CAVT）」を用いた。同尺度は、人に会ったり、様々な活動に参加したりすることを示す「アクション」（「学外の様々な活動に熱心に取り組む」「尊敬する人に会える場に積極的に参加する」など合計6項目）と、将来に向けた夢や目標、やりたいことなどをいかに明確にしているかを示す「ビジョン」（「将来のビジョンを明確にする」「将来の夢をはっきりさせ目標を立てる」など合計6項目）から構成されている。以降の分析では、下位尺度ごとの合計得点（それぞれ、アクション得点、ビジョン得点）を用いることにする。理論上の最小値は6点、最大値は30点となる。

4　結果と考察

（1）高校時代のキャリア教育の経験

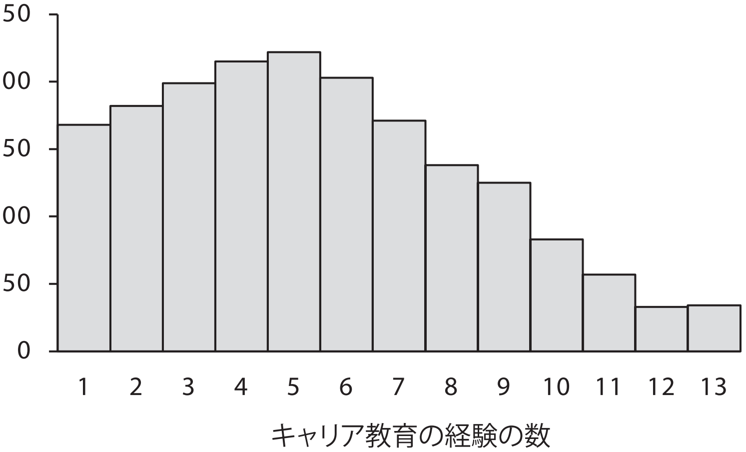
まず、高校時代のキャリア教育の経験の数について基本統計（平均、標準偏差など）および度数分布を求めた（図表１、図表２）。平均は5.49（SD=3.05）であり、最頻値は5、最小値は1、最大値は13であった。高校時代のキャリア教育の経験がゼロの者（経験がまったくない者）はいなかった。

図表１　高校時代のキャリア教育の経験の数について基本統計（平均、標準偏差など）

平均	5.49
標準偏差	3.04
最頻値	5
最小値	1
最大値	13

n=1,830

図表２　高校時代のキャリア教育の経験の数の度数分布図



次に、13項目からなる高校時代のキャリア教育の経験について、それぞれ「経験あり」と「経験なし」の度数分布および「経験あり」の割合を求めた（図表３）。最も多かったのは「進路に関する二者面談や三者面談」（81.0%）であり、次いで「進路の目標や計画を考える授業」（68.7%）、「進路に関する個別相談やカウンセリング」（57.0%）であった。これら上位3つは高校において重視されている授業や行事（労働政策研究・研修機構，2010)）と一致した。

（2）高校時代のキャリア教育の経験と大学新入生のキャリア意識

高校時代のキャリア教育の経験の有無によって大学新入生のキャリア意識が異なるのか明らかにするために、それぞれの経験の有無によって群分けを行い、両群のアクション得点、ビジョン得点に関してWelchの方法によるt検定を使って比較した。なお、図については、雨雲プロット（Raincloud plots）で示すことにする。本研究では、片側バイオリンプロット、箱ひげ図、ローデータのプロットだけでなく、平均を追加で施すことにする[注1)]。

まず、アクション得点の結果を示す（図表４、図表５、図表６、図表７）。「進路に関する二者面談や三者面談」を除くすべての項目において、両群の平均の差は有意であり、「経験あり」群の平均が「経験なし」群の平均よりも有意に大きかった。

図表３　高校時代のキャリア教育の経験の有無ごとの度数分布等

		経験あり	経験なし	経験ありの割合
A	職業興味や職業適性などの検査	1,026	804	56.1%
B	自分の性格を理解するための検査	1,013	817	55.4%
C	職業や仕事を調べる授業	929	901	50.8%
D	職業人や地域の人に仕事の話を聞く授業	656	1,174	35.8%
E	職場体験学習やインターンシップ	263	1,567	14.4%
F	ボランティアなどの体験活動	553	1,277	30.2%
G	進路に関する二者面談や三者面談	1,483	347	81.0%
H	進路に関する個別相談やカウンセリング	1,043	787	57.0%
I	進路の目標や計画を考える授業	1,257	573	68.7%
J	履歴書の書き方や面接試験の練習	490	1,340	26.8%
K	就職活動の進め方や試験対策の授業	357	1,473	19.5%
L	コミュニケーションやマナーを学ぶ授業	449	1,381	24.5%
M	労働法（働くことに関する法律）に関する授業	519	1,311	28.4%

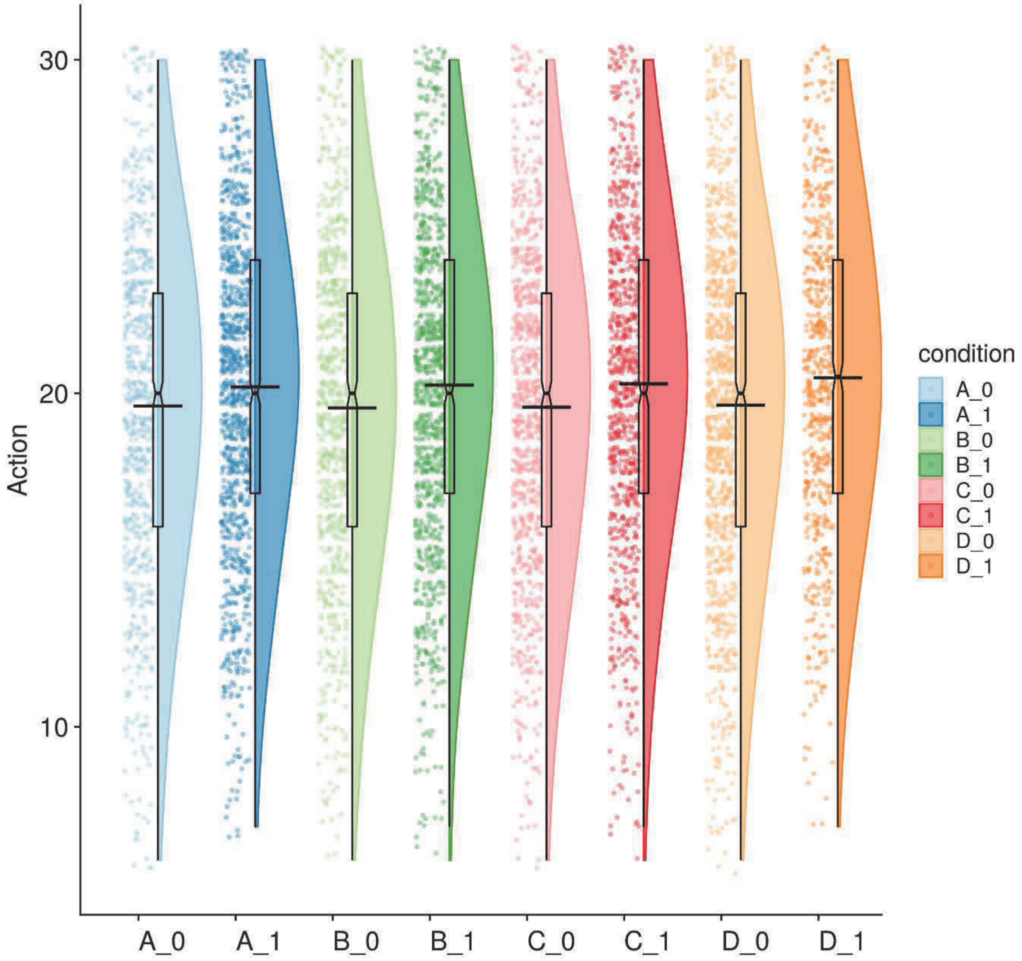
n=1,830

図表４ 高校時代のキャリア教育の経験の有無ごとのアクション得点の平均（標準偏差）とt検定の結果

	経験あり		経験なし	*t*	*df*	*p*	*d*	95%CI	
								Lower	Upper
A 職業興味や職業適性などの検査	20.19 (4.86)	＞	19.61 (5.05)	2.474	1692.553	0.013 *	0.117	0.024	0.209
B 自分の性格を理解するための検査	20.24 (4.86)	＞	19.56 (5.05)	2.929	1717.525	0.003 **	0.138	0.045	0.230
C 職業や仕事を調べる授業	20.28 (4.91)	＞	19.58 (4.97)	3.028	1824.678	0.002 **	0.142	0.050	0.233
D 職業人や地域の人に仕事の話を聞く授業	20.47 (4.75)	＞	19.64 (5.04)	3.547	1446.949	0.001 ***	0.182	0.081	0.283
E 職場体験学習やインターンシップ	21.23 (4.93)	＞	19.72 (4.93)	4.743	429.381	0.001 ***	0.332	0.194	0.470
F ボランティアなどの体験活動	20.44 (5.03)	＞	19.72 (4.91)	2.886	1031.291	0.003 **	0.147	0.047	0.247
G 進路に関する二者面談や三者面談	19.88 (4.84)		20.18 (5.42)	0.734	692.800	0.463	0.050	-0.084	0.184
H 進路に関する個別相談やカウンセリング	20.28 (4.76)	＞	19.49 (5.17)	3.327	1616.754	0.001 ***	0.157	0.064	0.250
I 進路の目標や計画を考える授業	20.13 (4.86)	＞	19.52 (5.14)	2.395	1053.145	0.016 *	0.121	0.022	0.220
J 履歴書の書き方や面接試験の練習	20.62 (5.03)	＞	19.69 (4.91)	3.511	1041.899	0.001 ***	0.216	0.095	0.337
K 就職活動の進め方や試験対策の授業	20.96 (5.00)	＞	19.69 (4.91)	4.343	536.340	0.001 ***	0.256	0.140	0.372
L コミュニケーションやマナーを学ぶ授業	21.34 (4.90)	＞	19.49 (4.89)	7.019	761.247	0.001 ***	0.381	0.274	0.488
M 労働法（働くことに関する法律）に関する授業	20.33 (4.95)	＞	19.78 (4.95)	3.392	923.192	0.001 ***	0.175	0.074	0.276

$^{*}p<.05$　$^{**}p<.01$　$^{***}p<.001$

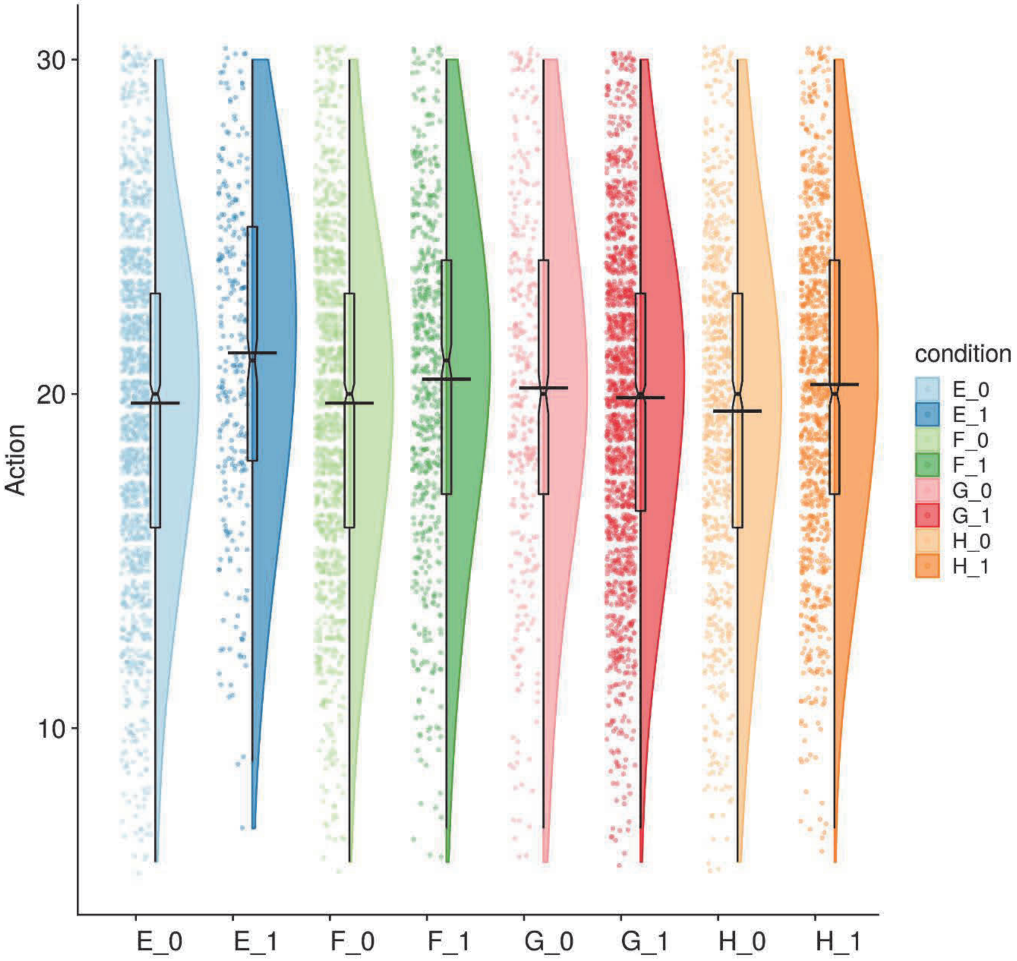
図表５ 高校時代のキャリア教育の経験の有無ごとのアクション得点の雨雲プロット（A ～ D）



注 1）
A_0　職業興味や職業適性などの検査　経験なし
A_1　職業興味や職業適性などの検査　経験あり
B_0　自分の性格を理解するための検査　経験なし
B_1　自分の性格を理解するための検査　経験あり
C_0　職業や仕事を調べる授業　経験なし
C_1　職業や仕事を調べる授業　経験あり
D_0　職業人や地域の人に仕事の話を聞く授業　経験なし
D_1　職業人や地域の人に仕事の話を聞く授業　経験あり

注 2）
箱ひげ図を横切るバー（横線）は平均

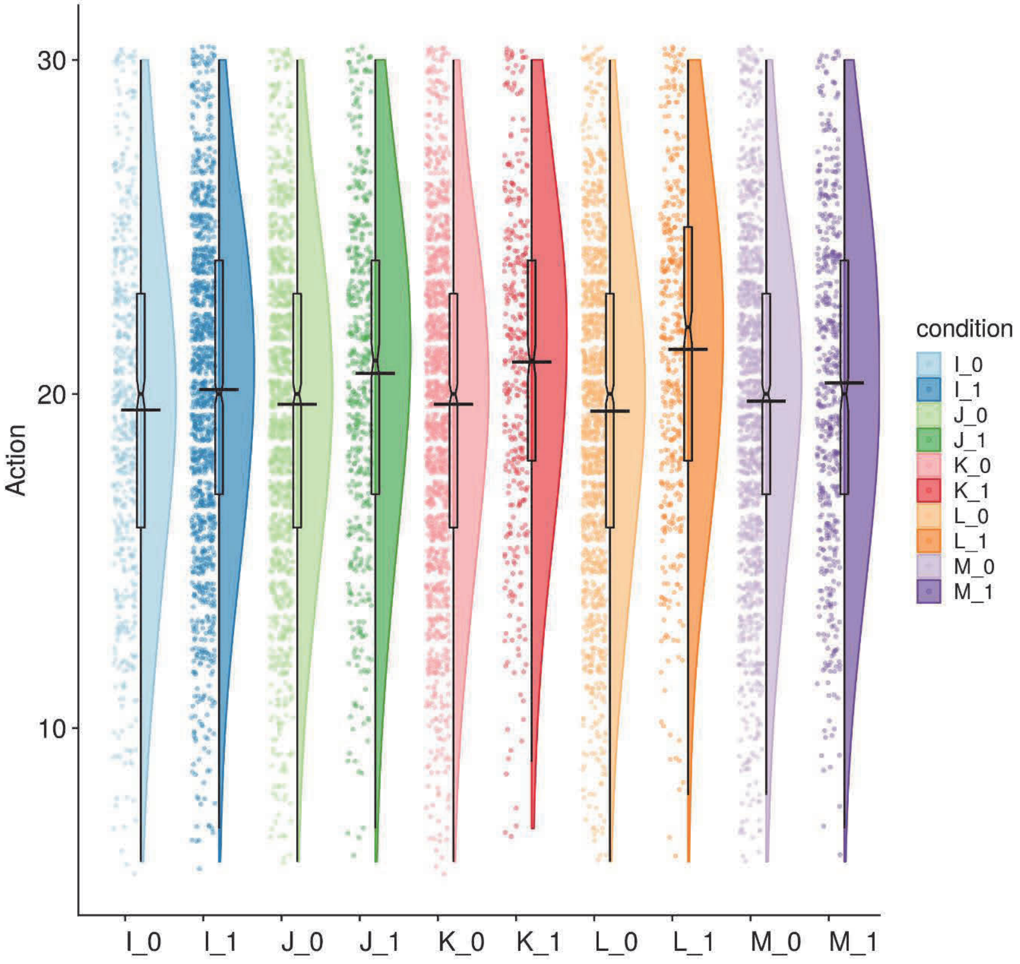
図表６ 高校時代のキャリア教育の経験の有無ごとのアクション得点の雨雲プロット（E～H）



注 1）
E_0　職場体験学習やインターンシップ　経験なし
E_1　職場体験学習やインターンシップ　経験あり
F_0　ボランティアなどの体験活動　経験なし
F_1　ボランティアなどの体験活動　経験あり
G_0　進路に関する二者面談や三者面談　経験なし
G_1　進路に関する二者面談や三者面談　経験あり
H_0　進路に関する個別相談やカウンセリング　経験なし
H_1　進路に関する個別相談やカウンセリング　経験あり

注 2）
箱ひげ図を横切るバー（横線）は平均

図表７ 高校時代のキャリア教育の経験の有無ごとのアクション得点の雨雲プロット（I〜M）



注 1）
I_0　進路の目標や計画を考える授業　経験なし
I_1　進路の目標や計画を考える授業　経験あり
J_0　履歴書の書き方や面接試験の練習　経験なし
J_1　履歴書の書き方や面接試験の練習　経験あり
K_0　就職活動の進め方や試験対策の授業　経験なし
K_1　就職活動の進め方や試験対策の授業　経験あり
L_0　コミュニケーションやマナーを学ぶ授業　経験なし
L_1　コミュニケーションやマナーを学ぶ授業　経験あり
M_0　労働法（働くことに関する法律）に関する授業　経験なし
M_1　労働法（働くことに関する法律）に関する授業　経験あり
注 2）
箱ひげ図を横切るバー（横線）は平均

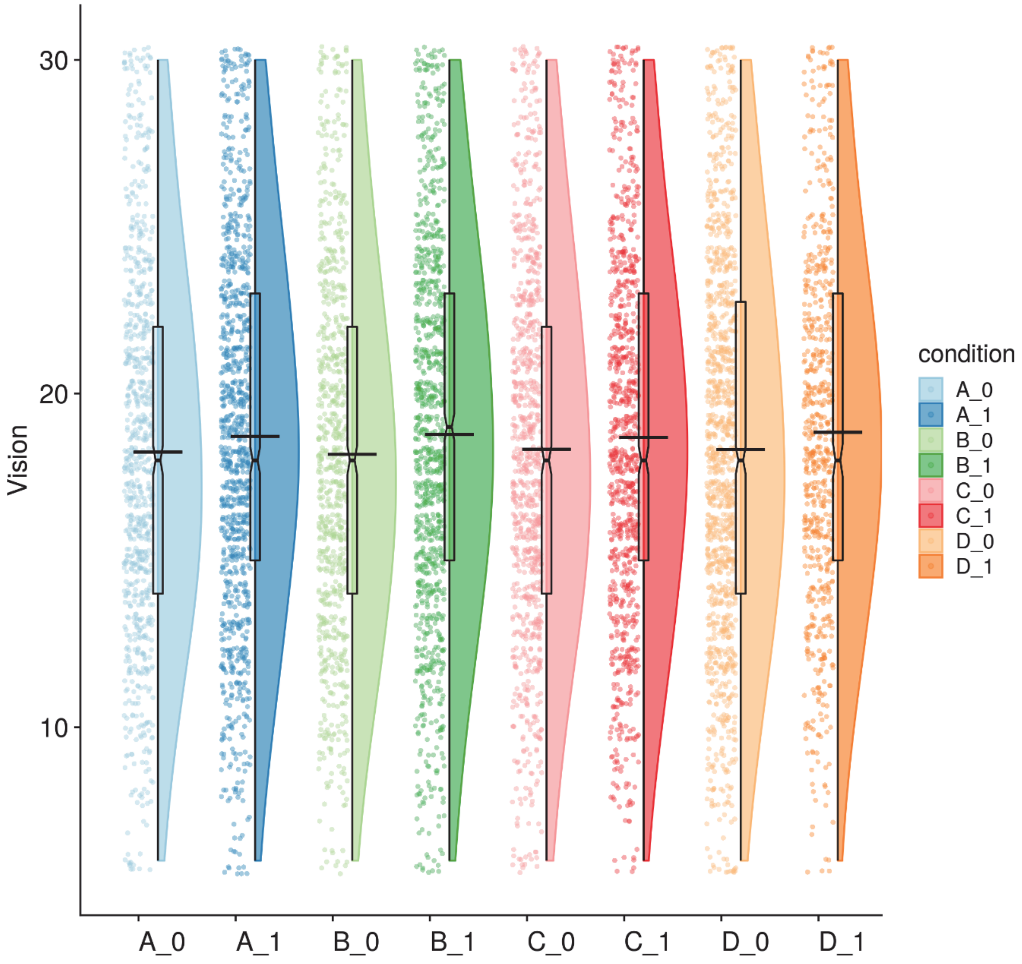
次に、ビジョン得点の結果を示す（図表８、図表９、図表１０、図表１１）。「自分の性格を理解するための検査」「職場体験学習やインターンシップ」「ボランティアなどの体験活動」「就職活動の進め方や試験対策の授業」「コミュニケーションやマナーを学ぶ授業」において、両群の平均の差は有意であり、「経験あり」群の平均が「経験なし」群の平均よりも有意に大きかった。なお、「進路に関する二者面談や三者面談」については、両群の平均の差は有意であったものの、他の項目とは異なり、「経験あり」群の平均が「経験なし」群の平均よりも有意に小さかった。

図表８ 高校時代のキャリア教育の経験の有無ごとのビジョン得点の平均（標準偏差）とt検定の結果

	経験あり		経験なし	*t*	*df*	*p*	*d*	95%CI Lower	95%CI Upper
A 職業興味や職業適性などの検査	18.72 (5.60)		18.25 (5.59)	1.778	1726.057	0.075	0.084	-0.009	0.176
B 自分の性格を理解するための検査	18.78 (5.64)	>	18.18 (5.54)	2.281	1759.771	0.022 *	0.107	0.015	0.199
C 職業や仕事を調べる授業	18.68 (5.54)		18.33 (5.67)	1.350	1822.752	0.177	0.063	-0.029	0.155
D 職業人や地域の人に仕事の話を聞く授業	18.84 (5.39)		18.32 (5.71)	1.919	1422.584	0.055	0.094	-0.002	0.189
E 職場体験学習やインターンシップ	19.29 (5.46)	>	18.38 (5.62)	2.518	361.533	0.012 *	0.168	0.037	0.299
F ボランティアなどの体験活動	19.08 (5.57)	>	18.26 (5.60)	2.865	1053.128	0.004 **	0.146	0.046	0.246
G 進路に関する二者面談や三者面談	18.35 (5.57)	<	19.20 (5.69)	2.531	513.094	0.011 *	0.151	0.034	0.268
H 進路に関する個別相談やカウンセリング	18.73 (5.55)		18.21 (5.66)	1.858	1676.024	0.063	0.088	-0.005	0.180
I 進路の目標や計画を考える授業	18.65 (5.55)		18.20 (5.71)	1.562	1082.469	0.118	0.079	-0.020	0.178
J 履歴書の書き方や面接試験の練習	18.90 (5.72)		18.36 (5.56)	1.847	850.671	0.065	0.097	-0.006	0.201
K 就職活動の進め方や試験対策の授業	19.06 (5.76)	>	18.37 (5.56)	2.041	527.954	0.041 *	0.120	0.005	0.236
L コミュニケーションやマナーを学ぶ授業	19.76 (5.57)	>	18.10 (5.56)	4.593	739.755	0.001 ***	0.248	0.142	0.354
M 労働法（働くことに関する法律）に関する授業	18.51 (5.58)		18.51 (5.61)	0.063	957.655	0.949	0.003	-0.098	0.105

$^{*}p<.05$　$^{**}p<.01$　$^{***}p<.001$

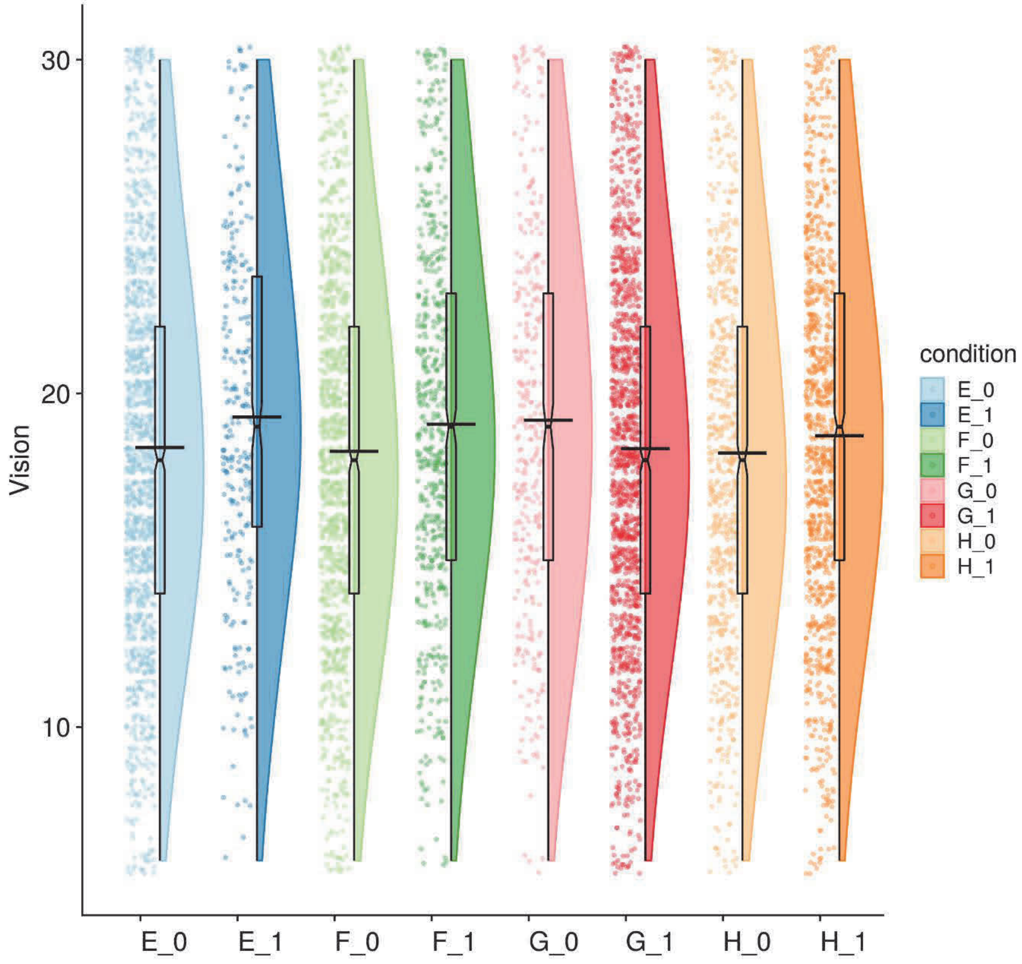
図表９ 高校時代のキャリア教育の経験の有無ごとのビジョン得点の雨雲プロット（A ～ D）



注 1）
A_0　職業興味や職業適性などの検査　経験なし
A_1　職業興味や職業適性などの検査　経験あり
B_0　自分の性格を理解するための検査　経験なし
B_1　自分の性格を理解するための検査　経験あり
C_0　職業や仕事を調べる授業　経験なし
C_1　職業や仕事を調べる授業　経験あり
D_0　職業人や地域の人に仕事の話を聞く授業経験なし
D_1　職業人や地域の人に仕事の話を聞く授業経験あり

注 2）
箱ひげ図を横切るバー（横線）は平均

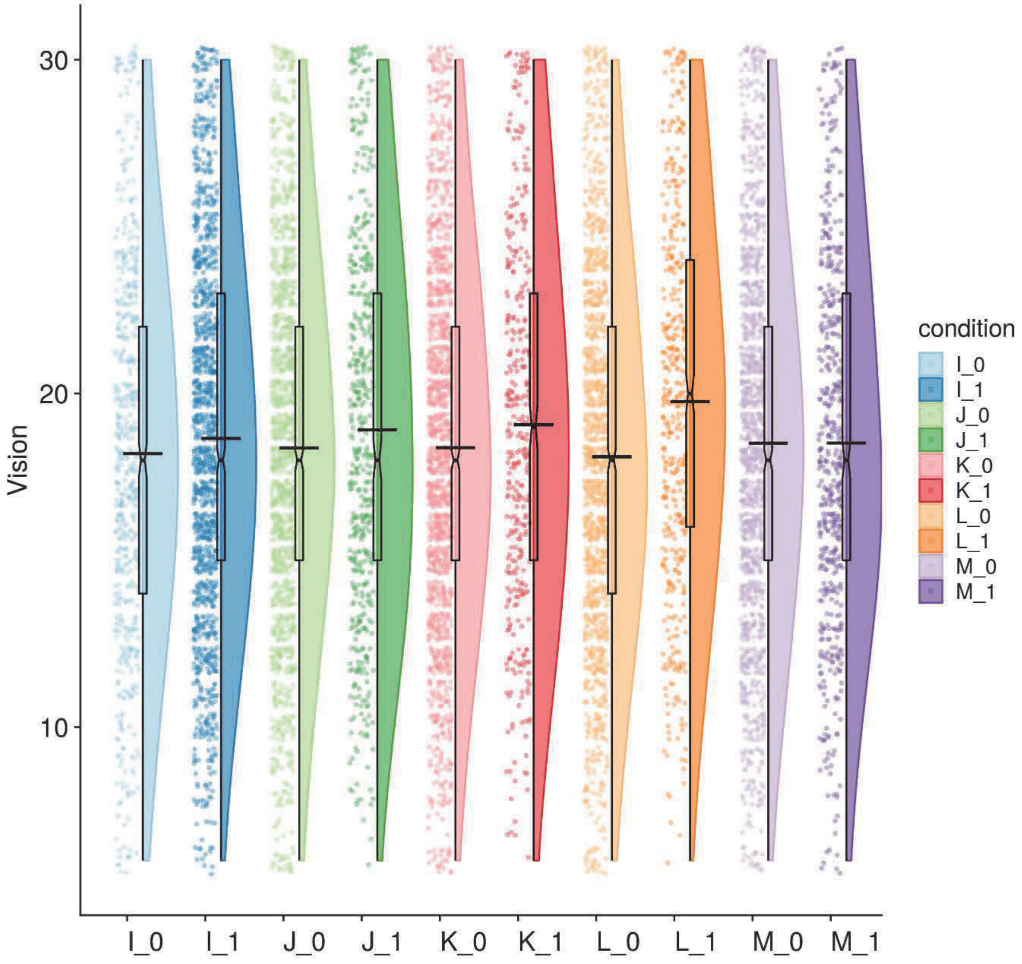
図表10 高校時代のキャリア教育の経験の有無ごとのビジョン得点の雨雲プロット（E～H）



注1）
E_0　職場体験学習やインターンシップ　経験なし
E_1　職場体験学習やインターンシップ　経験あり
F_0　ボランティアなどの体験活動　経験なし
F_1　ボランティアなどの体験活動　経験あり
G_0　進路に関する二者面談や三者面談　経験なし
G_1　進路に関する二者面談や三者面談　経験あり
H_0　進路に関する個別相談やカウンセリング　経験なし
H_1　進路に関する個別相談やカウンセリング　経験あり

注2）
箱ひげ図を横切るバー（横線）は平均

図表 11 高校時代のキャリア教育の経験の有無ごとのビジョン得点の雨雲プロット（I ～ M）



注 1）
I_0　進路の目標や計画を考える授業　経験なし
I_1　進路の目標や計画を考える授業　経験あり
J_0　履歴書の書き方や面接試験の練習　経験なし
J_1　履歴書の書き方や面接試験の練習　経験あり
K_0　就職活動の進め方や試験対策の授業　経験なし
K_1　就職活動の進め方や試験対策の授業　経験あり
L_0　コミュニケーションやマナーを学ぶ授業　経験なし
L_1　コミュニケーションやマナーを学ぶ授業　経験あり
M_0　労働法（働くことに関する法律）に関する授業　経験なし
M_1　労働法（働くことに関する法律）に関する授業　経験あり
注 2）
箱ひげ図を横切るバー（横線）は平均

なお、Cohen（1992）は、効果量dの「小（small）」／「中（medium）」／「大（large）」の判断について便宜的に、.20／.50／.80と提案している。そこでd＝.20を目安にすると、「職場体験学習やインターンシップ」「履歴書の書き方や面接試験の練習」「就職活動の進め方や試験対策の授業」が高校時代で経験があることは、大学入学後でもアクションを高めること、そして、「コミュニケーションやマナーを学ぶ授業」の経験があることは、大学入学後でもアクションとビジョンを高めることを示唆した。ただし、経験があることの効果（変数間の効果）は小さいと判断された。

5　まとめ

本研究の目的は、高校でのキャリア教育の経験の効果が大学入学後も持続するかについて明らかにすることであった。主な結果は下記の三点である。

第一に、高校時代に行ったキャリア教育関連の授業や行事では、「進路に関する二者面談や三者面談」「進路の目標や計画を考える授業」「進路に関する個別相談やカウンセリング」が記憶に残りやすいことが明らかになった。これらの授業や行事が上位であったことは先行研究（労働政策研究・研修機構 ,2010）と同様であった。先行研究（労働政策研究・研修機構 ,2010）の調査時期は2010年、本研究は2022年であったが、この2時点を比較すると、高校において重視されているキャリア教育関連の授業や行事は大きな変化がないのかもしれない。

第二に、高校時代のキャリア教育の経験がある者は、経験がない者と比べて、キャリア意識が概して高いことが明らかになった。言い換えれば、高校時代のキャリア教育の経験は大学入学後も効果が持続することが明らかになった。本研究で用いたキャリア意識の尺度はCAVTであり、人に会ったり、様々な活動に参加したりすることを示す「アクション」と、将来に向けた夢や目標、やりたいことなどをいかに明確にしているかを示す「ビジョン」から構成されている。なかでも「アクション」において有意差が多くみられたという結果は、高校時代のキャリア教育の経験があることが、大学入学後でも、人に会ったり、様々な活動に参加したりすることを概して促すことを示唆している。

第三に、特に、「職場体験学習やインターンシップ」「履歴書の書き方や面接試験の練習」「就職活動の進め方や試験対策の授業」「コミュニケーションやマナーを学ぶ授業」について高校時代で経験すると、効果は小さいながらも、大学入学後のキャリア意識を高める可能性を示唆した。ただし、労働政策研究・研修機構（2010）の分類においては、「履歴書の書き方や面接試験の練習」「就職活動の進め方や試験対策の授業」「コミュニケーションやマナーを学ぶ授業」は高校ではなく大学で重視されていると位置づけており、「職場体験学習やインターンシップ」は中学、高校、大学のいずれかでのみ重視されているのではなく、「その他」として位置づけている。実際に、本研究では、これらの経験がある者は2割から3割程度であり、新入生の大部分は経験していなかった。「履歴書の書き方や面接試験の練習」「就職活動の進め方や試験対策の授業」「コミュニケーションやマナーを学ぶ授業」については、高校時代までに未経験の者でもその後、大学で経験できる可能性が高い。そのため、単純に「履歴書の書き方や面接試験の練習」「就職活動の進め方や試験対策の授業」「コミュニケーションやマナーを学ぶ授業」を高校時代までに経験させるように促すことは妥当とは限らない。今回の調査では尋ねなかったが、対象者の高校の特徴、たとえば大学に進学する者がどの程度いるのか、就職する者がどの程度いるのかといった情報と合わせて分析をする必要があるであろう。対象者の中には、高校の同級生が高校卒業後に働く者が多く、それに関連したキャリア教育を一緒に受けてきたことから就職への構えが一定程度できているものの、大学を卒業した後の働き方についてはイメージができていない者がいる可能性がある。

注

1）Allenら（2019）が示している雨雲プロット（Raincloud plots）には、いくつかの種類があるが、どれも主要な統計量について冗長性を最小限に抑えつつ可視化していることに特徴がある。

引用文献

Allen, M., Poggiali, D., Whitaker, K., Marshall, T. R., & Kievit, R. A. (2019). Raincloud plots: a multi-platform tool for robust data visualization. *Wellcome open research*, 4: 63.

Cohen, J. (1992). Statistical power analysis. *Current directions in psychological science, 1*(3), 98-101.

労働政策研究・研修機構（2010）「学校時代のキャリア教育と若者の職業生活」No.125

下村英雄・八幡成美・梅崎修・田澤実（2013）「キャリア意識の測定テスト（CAVT）の開発」梅崎修・田澤実（編）『大学生の学びとキャリア―入学前から卒業後までの継続調査の分析―』法政大学出版局 pp.17–40.

Persistence of High School Career Education Experiences on Career Awareness in College

TAZAWA Minoru
UMEZAKI Osamu

This study investigated the persistence of the effects of high school career education experiences on career awareness in college. A sample of 1,830 first-year college students who had taken career education courses offered by their university's career center participated in the study. Participants were asked about their high school career education experiences and their level of career awareness. Three main results emerged from the analysis. First, the most memorable high school career education-related classes and events were "bilateral or tripartite interviews about career paths," "classes to think about career goals and plans," and "individual consultation and counseling about career paths." Second, participants who had experienced career education in high school generally showed a higher level of career consciousness than those who had not. Third, the study showed that high school experiences of "work experience learning and internships," "resume writing and interview practice," "classes on how to proceed with job hunting and test preparation," and "classes on communication and manners" may enhance career awareness after entering college, although the effects are small. This study revealed that career education experiences in high school had lasting effects even after entering college. The implications of these results for career education at universities are discussed.